WEBにも掲載しています

大崎第一地域ニュース

はなぐるま

第185号　2026.10.20発行

編　集　はなぐるま編集委員会
〒141-0031 品川区西五反田 3-6-3　TEL:3491-2000
saki1c@city.shinagawa.tokyo.jp　FAX:3491-2002
発行元　大崎第一地域センター

大崎第一探訪

～地域の人や場所の「今」～

大崎第一地区を中心に、品川区の人物や施設をご紹介します。時代とともに変わりゆく地域の姿と、そこに暮らす人々を通して品川区の魅力を共に再発見しましょう。

今回は、西五反田に事務局を構える公益財団法人日本野鳥の会について、普及室普及教育グループチーフの江面康子さんにインタビューしました。

公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan



えづら やすこ
江面康子さん

まず、日本野鳥の会について教えてください。

江面さん（以下、江面）：1934（昭和9）年に、野鳥研究家で僧侶の中西悟堂（なかにし・ごどう）が創設しました。野鳥を自然のまま観察し、その環境を守るという考えのもと、富士山麓の須走で第1回の「探鳥会」を開催したのが始まりです。現在は全国に約3万人の会員がおり、寄付をしてくださる方などを含めると、約5万人の方に支えていただいています。

現在は、どのような活動を行っているのでしょうか。

江面：主に、野鳥やその生息地を守る自然保護活動と、野鳥や自然に親しんでもらうための普及活動を行っています。自然保護と自然観察を両立する施設「サンクチュアリ」の運営に携わるほか、全国各地の支部では「探鳥会」を開催しています。また、発信機を使って渡り鳥の移動ルートを調べるなど、野鳥を守るための調査・研究にも取り組んでいます。

これまでの自然保護活動で、特に印象的な取り組みを教えてください。

江面：一つ例を挙げると、北海道の鶴居村で長年取り組んできたタンチョウの保護があります。タンチョウは、大正時代には絶滅したと思われていましたが、その後の地域のさまざまな方々や当会の保護活動によって個体数や分布域が回復し、2026年に公表された環境省のレッドリストでは、絶滅危惧種ではなくなりました。



<タンチョウ>
（鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ）

身近な野鳥を見守るための活動にも取り組んでいるそうですね。

江面：ツバメの子育てを見守っている企業や団体、学校などに感謝状を差し上げ、人と野鳥が共生する大切さを伝えています。春から夏には、地面にいるヒナを見つけてもむやみに拾わないよう呼びかけています。また、12月には近隣の第四日野小学校で、子どもたちに野鳥や自然について伝える授業も予定しています。



<コゲラ>



<シジュウカラ>

都内でも野鳥を楽しむには、どうすればよいでしょうか。

江面：インターネットから申し込んでいただくと、身近な野鳥を紹介する「おさんぽ鳥図鑑」を無料で配布しています。未使用の切手を寄付してくださる方もいて、次の方へ図鑑を発送する際に活用しています。もっと野鳥を見たいという方には先ほどお話しした「探鳥会」もおすすめです。「日本野鳥の会 探鳥会」で検索すると、全国各地の開催情報をご覧いただけます。11月、12月には日比谷公園で初心者向けのバードウォッチングも開催される予定です。



希望者には小冊子『おさんぽ鳥図鑑』を無料で配布しています

＜初心者向けバードウォッチングのご案内はこちらの二次元バーコードから確認できます＞

最後に、地域の皆さんへメッセージをお願いします。

江面：スズメなど普段から目にする鳥も野鳥ですし、秋から冬にはジョウビタキなどの渡り鳥も街中で見られます。秋冬は木の葉が落ちて鳥を見つけやすくなるので、木の梢を見たり、鳴き声に耳を澄ませたりしてみてください。思った以上にいろいろな鳥が見つかりますよ。

公益財団法人日本野鳥の会
所在地：東京都品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
公式ホームページ：https://www.wbsj.org/
※探鳥会などのイベント情報や入会方法は、公式ホームページをご覧ください。双眼鏡や長靴、野鳥をモチーフにしたグッズなども販売しています。

（編集委員　白根）

大崎第一地域センターでは、「はなぐるま」のほかにもSNSやサイトで、地域の様々な情報を発信しています♬ ぜひご覧ください！
※後日、地域共創メディア「大崎×五反田LINK」にカラーの記事が掲載されます♪
X（旧：Twitter） @osakidai1
Instagram osakidai1
大崎×五反田Link OSAKI×GOTANDA LINK 地域共創メディア『大崎×五反田LINK』